

ケーブルテレビ向け次世代 STB

ケーブルテレビジョン放送向けの次世代 STB を開発し、関連サービスの発展に大きく貢献した。背景として、2007 年末以降、Android OS 搭載のスマートフォン等の高速通信を活用する情報端末が急速に普及し始めていた。これらの端末ではオープンな開発環境により、多種多様なアプリケーションが広範に展開されたことが、情報端末の普及をさらに加速する一助となっていた。一方、ケーブルテレビにおいても、次世代のサービスを実現するために、放送との連携・連動可能な様々なアプリケーションが動作する新しい STB のプラットフォームの実現が急務となっていた。

当該技術は、STB によって放送受信再生はもとより、インターネット通信等を活用した多彩でダウンロード可能なアプリケーションの実行に対応し、更に、放送機能との連動を可能にすることを目的に開発した。特に、スマートフォンと同等のオープンプラットフォーム（Android OS）を採用しつつ、番組情報の取得やチューナ制御等の放送機能を上位層から利用可能とすることで、マルチスクリーン視聴やマルチデバイス対応アプリケーション、放送番組や地域情報と連動した新しいアプリケーションの提供を実現した。商用機は、2011 年 12 月に世界初のケーブルテレビ向けの Android OS 搭載 STB(商品名：Smart TV Box)として JCN(ジャパンケーブルネット, 現 J:COM)に導入を開始した。2014 年 9 月現在では、全国ケーブルテレビ局の 100 局以上に展開され約 20 万台が稼働しており、既存の TV を Smart TV 化するオープンプラットフォームを採用した STB として全国のケーブルテレビ事業者から高く評価され、幅広く採用されるに至っている。

